

「ヒゲナガ探検隊」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

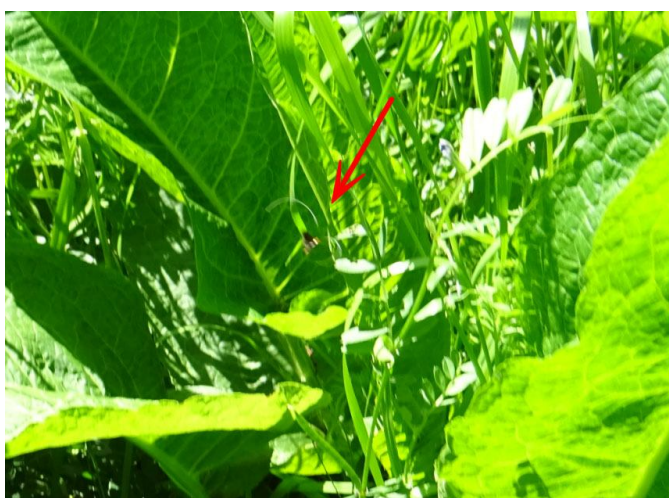
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「クロハネシロヒゲナガ」の同定ができた翌々日、子どもたちと、再度大学構内のテニスコート裏の空き地に出かけた。この珍妙な昆虫を観察しに行くためである。略して「ヒゲナガ探検隊」と命名した。



この空き地にはかつて、古風な大学職員寮があったが、それを知る人はもうほとんどいない。今は日当たりの良い草地で、周囲をクルミやクリの木に囲まれ、ほとんど手入れもされずに風致されている。この「風致された自然」が、子どもたちの自然観察にとっては、絶好の環境を提供してくれるのである。



目当ての「クロハネシロヒゲナガ」はすぐに見つかった。ネズミムギやカラスノエンドウの葉の間を、低い位置でフラフラと飛んでいる。白くてカールした長い触角が目立つので、簡単に見つけられる。面白いこ

とに、風にゆれるカラスノエンドウの「巻きひげ」とそっくりに見える。ひょっとすると、天敵から身を守る、ある種の「擬態」なのかも知れない。

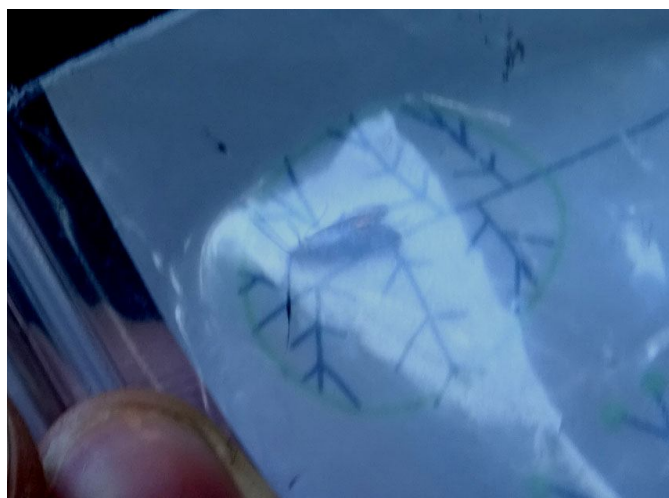


成虫のオスがたくさんいることはわかっていた。今回は出発前に、触角の短いメス、幼虫、それに卵も探してみようと、課題を与えておいた。活動中に、草地の一角から何度か歓声があがり、そのたびに子どもたちが「どこどこ？」と駆け寄っていた。



この時は「幼虫がいた！」という叫び声だったので、私も急ぎ駆けつけた。しかしヒゲナガの食草は、イネ科の植物

だ。どうやらシャクガ(尺蛾)の若齢幼虫のようだ。幼虫の同定は、成虫以上に難しい。



これぞという幼虫や卵は見つからなかったが、触角が短いメスは何匹も見つかった。メスがいるのだから、必ず繁殖しているはずだ。もう一度挑戦したい。